



恕の心



令和3年12月21日 校長 廣瀬 真樹



「己の欲せざる所は人に施すなかれ」

NHK大河ドラマ「青天を衝け」が今、放映中です。このドラマは2024年に一万円札に描かれることになった「渋沢栄一」の物語です。彼は「日本資本主義の父」と呼ばれ、500以上の企業や600以上の社会公共事業に関わった幕末～明治時代の先駆者です。国立銀行、東京証券取引所、東京電力など様々な業種の会社設立だけでなく、大学などの教育施設、日本赤十字社の設立にも貢献しています。

先日の放送の中で、その渋沢栄一が訪米中に、スピーチを行っていました。その場所はアメリカ西海岸、日本人移民が増え日本人を敵とみなす排日運動が起こっているところです。そのスピーチの中でこの言葉が出てきます。「日本人は敵ではありません。日本人移民は役に立ちたいという覚悟でやってきました。それを憎まないでほしい。日本には**「己の欲せざるところは人に施すなかれ」という恕の教え**が知れ渡っています。互いが心を開き、手を結び、皆にとってうれしい世の中を作るのが私の願いです」

この言葉の意味は『**自分が人からされたら嫌だなあと思うことは人にしてはいけません**』ということですが……

これって当たり前のことだし、皆さん、誰しもおそらく幼いころから言われてきたことだと思います。しかし冷静に普段の生活を振り返ってみると、こんな当たり前のことができてないときがあるものです。いつも相手の立場に立って物事を考えられる、そんないたわり、思いやりの心の大切さを改めて感じた瞬間でした。皆さんはどう思いますか？



校内学校給食献立コンクール



昨年に引き続き力作ぞろいでした。見事校長賞に輝いた1-1近藤さんのメニュー「“トマトもジューシー”おいしいタコライス」が1/19(水)の給食で出されます。楽しみです。給食を通して自分の「食」に興味を持つことは生きる力にもつながります。特に私が気になるのは皆さんの「朝ごはん」です。朝ごはんをしっかりとることは、脳も身体も活発にし、体内リズムを整えます。また太りにくい身体を作ることにもつながります。これを機会に「食」について考えてみてほしいと思います。

校長コラム

**人の悪口は うそでも面白いが
自分の悪口は 本当でも腹が立つ**

校下の「お寺の掲示板」に貼ってあったものです。他人の愚かさや欠点をあげつらって批評するのはけっこう楽しいものです。でも、自分のことを悪く言われると許せない。つまり、自分の愚かさを受け入れることは非常に難しい。人間だれしも自己中心的なものなのです。いつも人の悪口を言ったり、不平・不満をしゃべったり、誰かの失敗ばかりいって批判している人は結局自分の姿が見えていないものなのだと思います。お互い気をつけたいものです。